

札幌らしい特色ある学校教育



札幌らしい特色ある学校教育とは

【自立した札幌人の育成】

札幌市は、「札幌市教育推進の目標」を「未来を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる自立した札幌人」と定め、札幌の礎を築いた先人たちの心を継承し、未来に向かってねばり強くたくましく挑戦し続けることを通して、ふるさとである札幌を誇りとし、互いの立場と人権を尊重し合い、豊かな創造力を発揮しながら、世界を舞台に堂々と活躍できる「自立した札幌人」の育成を目指しています。

【札幌らしい特色ある学校教育とは】

「自立した札幌人」の育成を目指す学校教育を具現化するためには、ふるさと札幌に立脚して「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな身体」などの「生きる力」を育むことが必要です。

「札幌らしい特色ある学校教育」とは、このような考えに基づき、各幼稚園・学校が、札幌の素晴らしい自然環境・人的環境・文化的環境などを活かしながら、体験的な活動や、生涯にわたり学び・向上し続けようとする意欲を培うための基盤となる学習活動を教育課程に明確に位置付けて展開する教育です。

【このパンフレットは】

札幌市の目指す「自立した札幌人」の育成につながる「札幌らしい特色ある学校教育」を各幼稚園・学校の教育課程に適切に位置付けるため、三つのテーマ【雪】【環境】【読書】の学習活動について、具体的な事例を通して、幼児児童生徒に「育てたい力」を示したものです。

札幌らしい特色ある学校教育の推進

各幼稚園・学校においては、【雪】【環境】【読書】の三つのテーマに関する学習活動を展開するに当たって、その活動がどんな力の育成につながるものなのかを見極めることが大切です。

また、三つのテーマ以外に、各幼稚園・学校が独自に取り組む特色ある学習活動においても、育てたい力を明確にすることによって「自立した札幌人」の育成を踏まえた取組としての教育課程への位置付けが可能になります。【雪】や【環境】のように「札幌らしさ」を活かした体験活動として、あるいは【読書】のような生涯にわたり学び・向上し続けようとする意欲を培うための基盤となる活動として、どのような力を育てるのかを明確にしていくことが必要です。

全ての幼稚園・学校が共通に取り組む三つのテーマ【雪】【環境】【読書】

北国札幌らしさを学ぶ【雪】

札幌市は190万人を超える人口を有する大都市でありながら、年間降雪量が5mを超える世界でも稀有な街であり、豊かな自然に恵まれ、夏季のさわやかさ、冬季の雪と厳しい寒さを特徴とした鮮やかな四季の移り変わりが見られる。このような街札幌に暮らす子どもたちは、ウィンタースポーツや、雪まつりをはじめとするイベントなど、雪と親しむ生活の知恵や文化の中で育まれている。

「雪」をテーマとした学習活動に取り組むことを通して、子どもたちは、北国の季節や自然、人の暮らしや文化について多様な形で実感的に学び、ふるさと札幌への思いを心に刻みつける。また、「雪」を活かした体験的な学習は、全身を使って雪に親しみながら、積極的に野外で活動したり、雪の魅力に浸りながら、多様な活動を創造したりする中で、冬を元気に過ごし、北国の子どもとしてたくましく成長していくことにつながる。

未来の札幌を見つめる【環境】

札幌市は、平成19年に環境局と教育委員会が共同で「札幌市環境教育基本方針」を策定し、これに基づき、環境教育を効果的に行うための手引「札幌市環境教育プログラム」を作成した。

現在、環境教育は全ての市立幼稚園・学校において実施されている。各幼稚園・学校では、自然環境等を生かしながら、「校地外清掃活動」「節電への取組」など様々な取組がなされており、その内容を「エコスクール宣言」として教育委員会ホームページ上で公開している。

このように「環境」をテーマとし、発達の段階を踏まえながら、栽培活動や省エネ活動など、日々の生活の中で繰り返し実践できる活動を行っていくことで、地球環境や身の回りの環境問題に関心をもち、ふるさと札幌の美しい自然・環境を守り育てようとする気持ちにつながっていく。さらには、身近な環境を守り育てていくための取組や活動、人と人の関わりについて考え、自ら積極的にまちや人との関わりを深めながら、考え、行動するきっかけとなる。

生涯にわたる学びの基盤【読書】

読書によって、子どもは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにする。また、新しい情報を獲得することにより「知的好奇心」をふくらませ、生涯にわたり学び続けようとする心が培われる。加えて、子ども自身が自分の生き方について考えたり、つまずき迷ったときの心のよりどころを見いだしたりすることにつながる。

平成22年度の調査では、朝の読書活動を実施する学校が、小学校ではほぼ100%、中学校で約90%、高等学校で45%となっており、子どもの読書活動を促す取組が進んでいる。

学校図書館を中心とし、札幌市の恵まれた読書環境を有効に活用しながら、学級担任と司書教諭や図書館担当者などの大人が読書活動を支えたり、図書局・図書委員会の活動の活性化や、地域保護者ボランティアなどの協力などによる多様な読書活動の推進によって、子どもたちに楽しみながら幅広く読書をしようとするしよようとする意欲が育まれる。また、ものの見方や考え方を広げ自己を向上させようとする態度が生まれ、生涯にわたる「学びの基盤」となる力を身に付けることにつながっていく。

各幼稚園・学校の特色ある教育活動

「自立した札幌人」の育成に向けた取組は、学校という枠組みの中での活動だけでなく、保護者や地域と連携を図りながら、市民ぐるみで進めていくことが求められる。ここでいう「市民ぐるみ」とは、単に学校が地域から協力を得ることにとどまらず、学校が地域のまちづくりにも寄与する取組を進めるなど、双方向の理解と連携によって実現するものであり、このような学校における取組によって、子ども一人一人に、自分を支える身近な人や地域や社会等との関わりを深く考え行動する力が培われる。このようなことから、三つのテーマ【雪】【環境】【読書】だけではなく、例えば、地域の伝統芸能と関連した学習活動や文化芸術的な活動など、各幼稚園・学校が創意工夫し、地域の歴史や特性を活かした教育活動を通して、「自立した札幌人」につながる「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな身体」の育成を目指すことが期待される。

札幌らしい特色ある学校教育

【札幌市教育推進の目標】

未来を切り拓く 人間性豊かで 創造性あふれる 自立した札幌人

- 自らの夢や希望に向かってねばり強く挑戦し、努力するたくましい心身をはぐくむ
- 自他ともに尊重しともに支え合う思いやりのある心をはぐくむ
- ふるさと札幌に根ざし国際社会で活躍する豊かな創造力をはぐくむ

知

(学ぶ力)

～創造性・創造力～

徳

(豊かな心)

～人間性・思いやりの心～

体

(健やかな身体)

～たくましさ・ねばり強さ～

信頼される学校の創造

【子ども像】

生涯にわたる学びの基本を身に付けるとともに、札幌のまちへの主体的な関わりを通して学ぶ子ども

北国札幌らしさを学ぶ【雪】

「雪」や冬をテーマしたり、「雪」や冬を活かしたりする学習活動を通して、雪に親しみ雪と共生しようとする心情とともに、北国の季節や自然、人の暮らし等に対する知識・理解や雪に関わる活動への基本的な技能、自ら追究しようとする態度、問題を考えたり、判断したり、工夫したことを表現したりする能力などを育てる。

未来の札幌を見つめる【環境】

環境をテーマとした様々な学習活動に取り組むことを通して、環境や環境問題に関心を持ち、自らふるさと札幌の美しい自然・環境を守り育てようとする態度とともに、人々の生活や活動と環境との関わりについての理解と認識を深め、環境の保全に配慮した望ましい働き掛けのできる技能や思考力、判断力などを育てる。

生涯にわたる学びの基盤【読書】

様々な読書活動を通して、楽しみながら幅広く読書をしようとする意欲や、ものの見方や考え方を広げ自己を向上させようとする態度とともに、内容を適切に読む力や情報を活用する力などを育てる。

【各幼稚園・学校が独自に取り組む特色ある教育活動】

- (例)○地域と連携した学習活動
○札幌の文化・芸術に根ざした学習活動

〈1〉札幌らしい特色(札幌らしさ)を活かした取組

- 札幌の気候風土、社会的・人的・文化的環境を活かした体験的な活動

〈2〉子どもの未来を見すえ、札幌市としてより重点を置く学習活動

- 生涯にわたり、学び・向上し続けようとする意欲を培うための基盤となる活動

札幌らしい特色ある学校教育

魅力あるまち札幌

札幌の学校教育

雪の学習活動



ゆっぼろ

テーマ

幼稚園における実践

「雪」をテーマとした学習活動を通して、幼児が主体的に雪に親しみ、全身で十分に活動に浸ることによって、北国の長い冬の季節を元気に過ごすことができる。幼児期は、教師との信頼関係に支えられて自分でやってみようという気持ちをもつことができる発達の段階であることから、幼児の興味関心に基づく環境構成に配慮することが大切である。

実践例[1] 「大好き!冬の外遊び」(実践資料集P10~11参照)

冬の寒さや雪を楽しみながら遊ぶ

- ・環境構成を考え、幼児の意欲を喚起する。
- ・教師が率先して雪と親む姿勢を見せる。
- ・自然の変化に対するの関心を高めたり、戸外でダイナミックに冬の遊びを楽しんだりする活動に取り組む。
- ・カラフル雪遊び、かまくら作り、雪合戦、蹴り蹴りアイス作り、雪中サッカーなど



この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇幼児が主体的に雪に親しみ、遊びの中から発見したことや工夫したことを伝え合うことを通し、雪や冬の季節に親しむ態度を育てる。

小学校における実践

低学年では、幼稚園とのつながりを生かし、児童が全身で十分に活動に浸りながら雪に親しむことができるようにしていくことが大切である。また、高学年では、「雪」という視点から冬の天気や除雪など、日々の生活に関わる様々な問題に対して意識を高めていけるような単元を構成していくことが大切である。

実践例[2] 生活科1・2年 「みんなでつくろうスノーフェスティバル」

雪まつりを見学し、感想を話し合う

- ・雪像がすごかった。
- ・自分たちでも作りたい。

冬の遊びについて話し合う

- ・雪像作り、雪合戦、スキー、かまくら作り

スノーフェスティバルを提案し、計画を立てる

- ・雪像を作り、自分たちのフェスティバルにしよう。
- ・そりやスキーを使った楽しい冬のリレーをしよう。
- ・1年生も誘って、一緒に遊びたい。

1年生を招待し、スノーフェスティバルを開く

自分たちの スノーフェスティバルを

さっぽろ雪まつりなどのイベントに参加することにより、「自分たちも雪を使って何かしてみたい!」という思いを生む。

楽しさを共有

感想を伝え合い、友達や異学年で味わう楽しさについて思いを共有できるようにする。

この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇雪まつりを見学し、雪像の迫力や美しさを感じたり、雪を使った遊びに全身を使って浸ったりする活動を通して、多様な活動を生み出す雪の魅力に気づき、自分たちの遊びを工夫したり表現したりする力を育てる。



実践例[3] 5年理科 「冬の天気~天気の変化」(実践資料集P14~15参照)

大雪が降る時の気象条件について考える

- ・大雨の時と同じように、低気圧が来ると大雪になるのかな?
- ・大雪なのにはっきりした雲の塊がない。

気象資料から、大雪が降る時の特徴を捉える

- ・大雪を降らす雲は筋状の雲だ。
- ・大雪の時には、等圧線が縦に並んでいる。

学習を生かして、天気の予想をする

- ・筋状の雲が札幌にかかりそうだよ。きっと大雪だ。
- ・等圧線が縦になった。大雪になるかもしれない。

子どもの探究心を喚起

事前に冬休み中の天気を調べる活動に取り組みせ、子どもが自ら得た資料や記憶を学習に生かすようにする。

生活に生きる学びへ

学習したことを生かして、天気を予想することで、学習を自らの生活に生かそうとする意欲を高める。

この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇気象衛星の画像や天気図等の資料を用いて、冬の天気の特徴を調べる活動を通して、自ら問題を解決する力を育むとともに、冬の天気についての理解を深める。
- ◇学習を生かして天気を予想する活動を通して、学習したことと生活とのつながりについての認識を深めるとともに、学習を生活に生かそうとする意欲を高める。

実践例 [4] 特別活動 「雪遊びを通した異学年活動」冬を楽しもう！
(実践資料集P12～13参照)

「みんなでとことん冬を楽しもう！」

遊びのアイデアを出し合う

・休み時間などを利用して、縦割りのグループごとに集まり、冬の活動でどんなことをしたいかアイデアを出し合う。

めあて、内容、順番を決める

・5・6年生のリーダー会で、めあて、内容、順番などを相談し決める。その後メンバーに計画を伝える。

実践と振り返り

・1～2コマ程度実際に雪像作りや雪中運動会などの冬を楽しむ活動を実践し、後日、グループ毎に振り返りを行う。

工夫できる余裕を

活動計画を立てる際は、めあて、内容、順番を簡単に考える程度にする。活動の中で子どもたちが工夫できる余裕を計画にもたせることが大切である。

教師の適切な支援を

活動を子どもたちに任せきりにしない。楽しく活動しているグループには称賛を、停滞しているグループには原因を探り具体的に提案を出すなどの支援をする。

振り返りの場の設定

ビデオ映像を見たり、振り返りカードを交換するなどし、楽しかった事実等を確認め合えるようにする。

**この学習活動で
ねらいとする育てたい力**

◇子どもたちの発想を生かしながら計画を立て、実践することを通し、より楽しくなる活動を工夫する力を育てるとともに、異学年での取組による様々な問題を解決しようとする態度を育てる。



**中学校・高等学校
における実践**

中学校・高等学校では、学校と地域とが相互に連携協力をしながら、生徒の自主性を生かし、アイスキャンドル作りや除雪ボランティア活動等の体験学習を積み重ねることで、集団や社会の一員としての自覚を高めることができる。また、理科の学習では雪を水の状態の一つとして科学的に分析するなど、より専門的な雪に対する見方を創り出すこともできる。

実践例 [5] 体験活動 「アイスクャンドル」(道徳と特別活動を関連付けて)
(実践資料集P20～21参照)

「雪に親しみ、人々とのつながりを感じる」

地域活動への参加体験を話し合う

・生徒に地域活動への参加体験を聞き、地域で行われている行事等について把握する。町内会役員等、地域の方まづくりで活躍されている方を招待して、取組の様子や取組に関わる苦労についてお話を聞く等、道徳と関連付け「感謝」の気持ちを表す活動として取り組む。

キャンドルを作成しメッセージを伝える

・キャンドルに「地域への感謝」や「つながり・絆」などの、メッセージを込めて作成する。キャンドルの点火セレモニーを行い、地域の方々への感謝のメッセージを伝える。地域への案内ポスターや高齢者宅への招待状を作成するなど、地域とのつながりを意識した取組とする。



自分たちにできる地域活動への参加を考える

道徳と関連付けて、地域の方々への感謝の気持ちを

日頃から見守ってくれている地域の方々への感謝の気持ちを伝えるものとしてアイスクャンドルを作成することで、温かい雰囲気を感じながら、仲間や地域の人たちとの心のふれあいへとつなげる。

関係機関との連携を

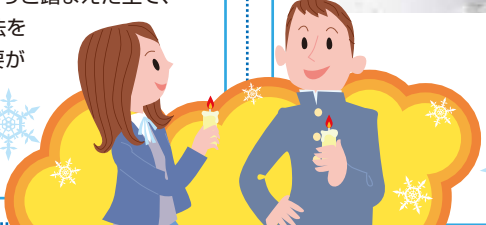
地域除雪等のボランティア活動へとつなげて取り組む場合には、地域の関係機関と連携しながら、自ら社会参画しようとする心や態度を育むようにする。

発達の段階を踏まえた活動を

特別活動等で雪中運動会をしたり、アイスクャンドル作りをしたりする等の体験的な活動を行う際には、活動内容が幼くならないよう、発達の段階をしっかりと踏まえた上で、活動内容や方法を具体化する必要がある。

**この学習活動で
ねらいとする育てたい力**

◇生徒たちが地域社会の一員としての自分を見つめ直しながら、感謝の気持ちを込めてアイスクャンドルを作成する活動を通して、雪に親しむとともに、優しく温かいまちづくりに主体的に参画しようとする態度を育てる。





スキー学習



学校におけるスキー学習は、北国ならではの恵まれた冬の自然環境を活かした体験活動であるとともに、「雪」に親しみながら積極的に屋外で体を動かすことのできる貴重な学習機会である。学校や地域、子どもたちの実態を踏まえ、小学校の体育、中学校・高等学校の保健体育におけるスキー学習を通して、生涯にわたってスキーの楽しさを味わい、北国の子どもとしてたくましく成長していくための力を育てることが大切である。

○小学校(低学年)で育てたい力

冬の屋外で元気に楽しく行うスキー遊びなどを通して、スキーで滑降するために必要な身体の動きや感覚を身に付けるとともに、雪上での活動方法を知り、友達と仲よく雪上でのスキー遊びを体験的に楽しむ態度を育てる。

○小学校(中学年)で育てたい力

スキー遊びの楽しさを引き続き味わいながら、安全に滑降できる斜面を伸び伸びと滑降する学習などを通して、基本的なターンの技能を身に付けるとともに、自分の力に合った滑降方法や斜面を選択し、友達と励まし合いながら滑降する楽しさを味わおうとする態度を育てる。

実践例【1】
「スキー遊び」
(グラウンドまたは公園のスキー山等を使用)

実践例【2】
「歩く、滑る」
(グラウンドやスキー山、スキー場の緩斜面を使用)

学習内容

- ・帽子や手袋など服装についての確認(汗の始末)
- ・スキー用具の準備・片付け
- ・スキーの運搬
- ・スキー靴での歩行
- ・スムーズなスキーの脱着
- ・安全な転び方と立ち上がり方
- ・平地歩行、方向変換
- ・緩斜面の階段登行、開脚登行
- ・グラウンドのコースで歩行
- ・直滑降
- ・ブルーク(ハの字)の直滑降
- ・ブルークからの制動と停止
- ・ブルークから曲がって停止
- ・ブルークボーゲン(浅回り)

学習内容

- ・平地でのスケータイング
- ・ブルークの斜滑降
- ・自然なスタンスの斜滑降
- ・いろいろなリズムのブルークボーゲン
- ・ブルークボーゲンで連続ターン
- ・スピードをコントロールして長い距離を滑降
- ・ブルークボーゲン(深回り)

指導のポイント

- ・スキーとストックのまとめ方、持ち方、運搬の仕方
- ・靴底の雪を取り、確実に踏み込んでスキーを装着
- ・正しいストックの握り方
- ・適切な練習の場の設定
- ・片スキー、両スキーの運動を取り入れた練習
- ・ノーストックでの練習
- ・安全に停止できる斜面の選択(緩い斜度と十分な停止スペース)
- ・テールの押し開きによる制動
- ・遊びの要素を取り入れ、滑降の楽しさを味わわせる工夫
- ・前後・左右・上下の重心移動による簡単なターン

※一人一人の子どもの健康状態や用具・服装の確認
 ※天候や子どもたちの状況に応じて、適宜、休憩を取り入れる。
 ※一人一人に適切な支援が行えるよう指導体制を工夫(外部人材・教育ボランティア等の活用)

指導のポイント

- ・グラウンドの平地やスキー山を活用したリレー競争
- ・適切な斜面の選択
- ・ノーストックでの練習(両手を大きく広げて、膝を押さえて、手を腰に当てて)
- ・ブルークスタンスの幅の変化
- ・スキーの連続押し出し
- ・小刻みな連続ジャンプ
- ・前後・左右・上下に重心を移動する感覚
- ・制限滑降(マーカー等の活用)
- ・トレーン(前の人に連なって滑降すること。技能に応じて、前の人が転倒しても対応できる安全な間隔をとる。他のスキーヤーの滑降の妨げにならないように注意)

※小まめな人員把握と健康観察
 ※リフトの利用法やゲレンデでのルール・マナーの確認(リフト乗り場での並び方、停止・待機場所、滑降コースの設定等)

◆教育課程に位置付けるに当たっての留意点

- ・幼稚園においては、「健康」「進んで戸外で遊ぶ」学習活動として雪遊びを位置付け、小学校から始まるスキー学習につなげる。小学校においては「体育」、中学校・高等学校においては「保健体育」の授業として位置付ける他、特別活動(スキー遠足)としての実施も考えられる。
- ・寒冷な自然条件における活動のため、健康面に留意するとともに、事故防止について十分配慮しながら実施する。
- ・用具等の経費負担が生じることから、保護者の理解を得た上で実施するよう努める。
- ・北国の自然に親しむことにより、自然環境と人間との関わりについて考えたり、スキー場におけるルールやマナーを学んだりすることを通して、子どもたちの道徳性や社会性を育むよう心掛ける。

○小学校(高学年)で育てたい力

安全に配慮しながら長い斜面を連続したターンで滑降する学習などを通して、滑降のスピードやターンのリズムを調整する技能を身に付けるとともに、自分の課題に応じた練習に取り組み、互いに協力しながらスキー本来の滑降の楽しさや喜びを味わおうとする態度を育てる。

○中学校・高等学校で育てたい力

斜面の状況に応じた技術を用いて様々な斜面を滑降する学習を通して、状況に応じた滑降の技能を身に付けるとともに、自分の課題に応じて練習への取り組み方を工夫し、互いに協力しながら、生涯にわたってスキーの楽しさや喜びを味わおうとする態度を育てる。

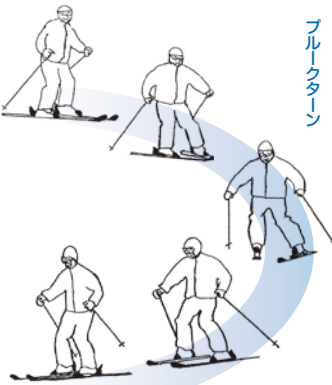
実践例[3]

「滑る、ターンする」

(主にスキー場の中斜面を使用)

学習内容

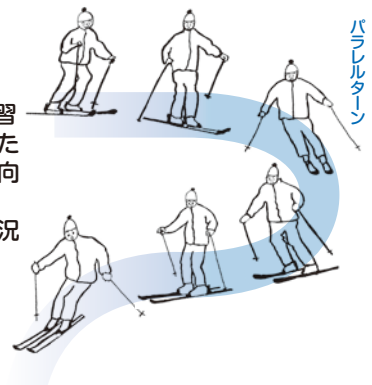
- ・スピードや斜度に応じたターン弧の調整
- ・大回り、中回りのターンを組み合わせたリズム変化
- ・長い距離を効率のよいスキー操作での滑降
- ・自然なスタンスによるブルークターン



ブルークターン

学習内容

- ・習熟度別のグループ学習
- ・自己の滑降能力に応じた課題設定と課題解決に向けた工夫
- ・いろいろなコースを状況に適したスピードやリズムでの滑降
- ・初歩の平行ルターン



平行ルターン

指導のポイント

- ・適切な斜面の選択
- ・谷足荷重を意識したターン
- ・トレーン、ペアの滑降
- ・制限滑降(マーカー等の活用)
- ・リズムやスピードの調整
- ・斜行ブルークから横滑り
- ・ノースtockでの練習

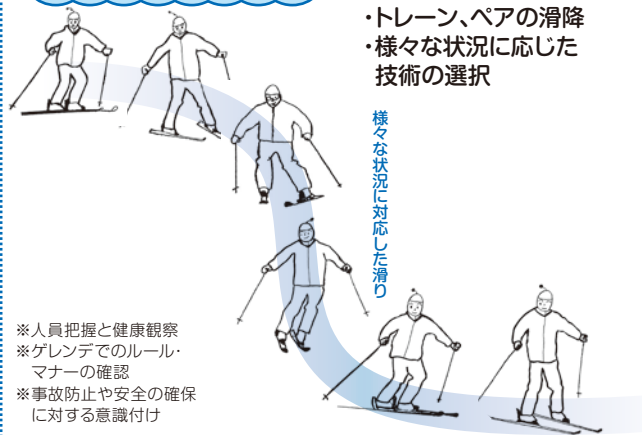


トレーン

- ※小まめな人員把握と健康観察
- ※リフトの利用法やゲレンデでのルール・マナーの確認(危険行為の確認、コースの端で停止・待機、コース合流時の衝突防止、適切なスピードコントロール)
- ※常に子どもたちの様子を把握

指導のポイント

- ・適切な斜面の選択
- ・ポジションの確認
- ・トレーン、ペアの滑降
- ・様々な状況に応じた技術の選択



様々な状況に対応した滑り

- ※人員把握と健康観察
- ※ゲレンデでのルール・マナーの確認
- ※事故防止や安全の確保に対する意識付け

安全なスキー学習とするために…

- ・用具の調整や準備についての事前指導
- ・練習斜面や滑るコースを適切に選択
- ・グループの列の下で安全に停止し、順に整列
- ・万一の事故発生時の連絡体制や緊急時の対応方法を事前に確認
- ・保温と保護を考えた服装と身支度
- ・コースの中央での停止、待機は厳禁
- ・天候や子どもの疲労等を考慮した無理のない学習計画
- ・体調管理と入念な準備運動
- ・可能な限り小さくコースの端に整列

環境の学習活動

テーマ



幼稚園・小学校 (低学年)における実践

幼稚園・小学校(低学年)においては、その発達の段階を踏まえて、日々の生活の中で繰り返し実践できる活動を、無理せず行っていくことで環境問題等への意識を高めていく。幼稚園や学校で行っている栽培活動や省エネ活動が家庭生活でも生かされるようになることが大切である。

実践例【1】 幼稚園2年保育5歳児 「みんなの畑は、たからばこ!!」(実践資料集P42~43参照)

みんなの畑でどんな野菜を栽培したいかな?

・じゃがいもを育てたい。にんじんや玉ねぎがいいな。

畑の達人から聞いて、できることをやってみよう

・草取りや水やりは毎日できるね。知りたいことを聞いてみよう。

できた野菜を食べてみよう

・ピザパーティーでおいしく食べよう。
・自分たちで作った野菜はおいしいね。

自分たちにできることを

幼児が自分たちで食べたい野菜の栽培計画を立てることで、お世話しようとする意欲が高まる。

意欲を喚起する

実際に食べる体験を通して、身近な栽培活動への関心を高めることができる。



この活動でねらいとする育てたい力

- ◇子どもたちと食べたい野菜の栽培計画を相談して立てることで意欲的にお世話をしようとする態度を育てる。
- ◇地域の方と関わりをもちながら取り組むことで、野菜の栽培方法を知り、植物への興味関心や大切に育てようとする気持ちを育てる。

実践例【2】 小学校1年生活科 「もったいないをなくす大さくせん」(実践資料集P44~45参照)

もったいないところは?

・水を出しっぱなしにしている。電気をつけっぱなしにしている。

もったいないをなくす大さくせんをやってみよう!

・紙のリサイクルをする。使わない電気を消す。
・暖房の設定温度を下げる。

もったいないをなくす大さくせんを見直そう!

・開けたらすぐ閉めよう。教室が暗すぎるよ!

これからも続けていこう

・無理をせずに続けるよ!無駄をなくするよ!



もったいない!

「もったいない」と感じることを考え、省エネへの意識を高めながら、子どもたちができそうな省エネ活動に取り組む。

無理なく続ける

子どもたちが計画し、取り組む省エネ活動を1週間後に振り返り、「無理なく続けられるか?」という視点で話し合いを行い、活動を見直していく。

この学習活動でねらいとする育てたい力

- ◇学校生活で身の回りの無駄を探し、自分で決めた「省エネ活動」を行うことで、活動を見直したりしながら、省エネ活動を継続しようとする態度を育てる。
- ◇いろいろな省エネの方法を知り、試してみることから活動を始め、友達同士で関わり合いながら学校生活での省エネ活動を行うことから、それを家庭での生活でも実践しようとする態度を育てる。

小学校(中学年・高学年) における実践

小学校(中学年・高学年)においては、理科、社会科、家庭科などの教科との関連をより意識し、環境に関する学習を行う。ごみの減量や、省エネ活動など、教科で実際に体験をしながら学習していくことで、学校での学びを家庭生活にも生かし、より環境問題に興味をもって実践できるようになることが大切である。

実践例【3】 小学校4年社会科 「ごみはどこへ」(実践資料集P46~47参照)

1日一人491g。どんなごみが出されているのかな?

・生ごみ・缶・ペットボトル・ティッシュ

たくさんのごみステーションをどうやって回るの?

・回収の仕方があるようだ。実際に清掃事務所の人に聞いてみよう。

ごみパトロール隊はどうして違反シールを貼るの?

・みんなで正しく分別をしないと、ごみの減量につながらないから。

ごみの減量に向けて自分にできることを考えよう

・ごみ分別のルールを守る。
・ものを大切に使い、ごみを減らす。



地域に目を向ける

ごみステーションを取り上げることで、ごみの学習から地域の環境に目を向けることができる。

清掃事務所等との連携

各区にある清掃事務所等に協力してもらうと、そこに携わる人の話が聞け、意欲化につながる。



この学習活動でねらいとする育てたい力

- ◇ごみパトロール隊の活動について調べることを通して、ごみの分別に対する意識を高め、主体的に自分のまちの美しさを守ろうとする態度を育てる。
- ◇ごみ袋の有料化やごみパトロールの活動について考えることで、札幌市が計画的に工夫しながら大量のごみを処理していることを理解する。

実践例[4] 小学校6年理科 「電気の利用」(実践資料集P48~49参照)

電気はどんな働きをしているかな?

- ・光や音や熱に変わっている。

手回し発電機にいろいろなものをつなげて発電してみよう!

- ・電気を使う物につなげると手応えが重たくなるよ。

コンデンサにつないでいるいろいろなものを動かせよう!

- ・働きによって、持続時間が違う。

コンデンサにLED電球をつないでみよう

- ・豆電球は熱を出すけど、LED電球は熱くならない。



上手な電気の使い方は?

- ・LEDなど省エネ家電の活用
- ・屋上のソーラーパネルなどの組合せ

電気は、変身が得意

家電製品は、どんな仕事をしているのかを考える。「光」や「音」と類別していくと、掃除機のように「動きとともに熱も生み出していること」など、複合的な変換に目が向いていく。

使用電流量の違い

いろいろなものに手回し発電機をつなげて回すと、その手応えの違いに気付く。実際に電流計で測り、回路に流れる電流の強さを調べながら自分の生活を見直していく。

この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇身の回りの家電製品の使用電力量等を調べる活動を通して、電気の働きについて考え、よりよく使っていこうとする態度を育てる。
- ◇電気の性質や利用について、自ら行った実験の結果と仮説を照らし合わせながら推論させることで、身の回りにある家電製品の望ましい使い方について、考察する力を育てる。

中学校・高等学校 における実践

中学校・高等学校においては、社会科(地理歴史科・公民科)や理科、保健体育科、技術・家庭科(家庭科)等で環境に関する学習を行う。身の回りの現象に目を向け、地球環境の現状を的確に捉えたとともに、よりよい環境づくり、環境保全に向けて生徒一人一人がどのように行動すべきかを考え、実行する力を育むことをねらいとしている。

実践例[5] 中学校1年理科 「身の回りの物質」(実践資料集P54~55参照)

家庭から出るごみの種類を調べよう

- ・ごみの標本づくりを行う。

ペットボトルの性質とリサイクルについて考えよう

- ・プラスチックの種類や性質を知る。
- ・ペットボトルのリサイクルについて学ぶ。(札幌市青少年科学館ではリサイクル学習セットの貸出しをしている)
- ・4Rの必要性について考える。



ごみの標本づくり

家庭から出るごみの標本づくりをすることにより、身の回りの物質に目を向けるようになる。ごみとして出されるものは、製品本体よりも、それを包んでいるものであることに気付くことができる。

プラスチックの油化実験

発泡スチロールをフラスコ内に入れて熱すると、気体となる。それを蒸留して得られた液体は燃えるので、プラスチックは石油からできていることに気が付き、4Rの視点をもつことができる。

この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇身の回りのごみについて考えることから、自分の生活を見直そうとする態度を育て、持続可能な社会を構築するために必要なことを考える力を育てる。
- ◇プラスチック製品が石油からできていることやエネルギー資源が有限なことを理解する力を育てる。

※4Rとは、リフューズ(発生源からごみを絶つ)
リデュース(詰め替え等長く使う)
リユース(繰り返し使う)
リサイクル(資源として再利用する)

実践例[6] 高等学校公民科 「環境税から考える持続可能な社会」(実践資料集P56~57参照)

地球環境問題について概観する

- ・様々な環境問題について確認する。

地球温暖化を例に、深く考える

- ・化石燃料使用によるCO2排出量の増加に伴う現象について知る。

環境税の導入の賛否について考える

- ・環境税について知る。
- ・導入賛成派と反対派の考えをまとめる。
- ・自分の意見をまとめる。
- ・交流を通して、様々な視点や立場から考える。

持続可能な社会づくり

持続可能性という考え方をキーとして、「幸福・正義・公正」という視点から、今後の社会の在り方を考える。

ペロタクシー

2008年から、1台のペロタクシーが運行されている札幌の様子について伝えると効果的である。



この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇課題に対する意見の交流を通して、異なる意見に配慮して、広い視野で物事を見る態度を育てる。
- ◇地球環境問題の解決策を考えるを通して、国際協調などによる国際的な統治の必要性を理解する力を育てる。



読書の学習活動

テーマ



幼稚園・小学校 における実践

幼稚園・小学校においては、その発達の段階を踏まえ、読み聞かせや読書をテーマとしたイベントなどを通して様々なジャンルの本に触れ、本を読んでもらったり自分でも読んだりして読書の楽しさを味わうことが大切である。

実践例 [1] 幼稚園・小学校低学年 「本となかよしになろう」 ～本が身近になる読書環境～

本が身近になる環境づくりをしよう

- 司書教諭(幼稚園の場合は教諭)、図書委員、図書館ボランティアなどが各学年に20冊程度の本を選定し、トラックの形をした箱などに入れ、親しみやすい「ブックトラック」と名付けるなどして、ワークスペースに置き、いつでも本を手に取りやすいようにする。



読書記録を残そう

- 低学年「わくわく読書マラソン」1冊読むごとにカードのマスに色を塗る。
- 中、高学年「5000ページの旅」読んだページを累計して、カードに記録する。

図書館ボランティアの取組

- 図書館のキャラクターを決め、キャラクター名を募集したり、季節ごとの掲示など親しみやすい環境づくりを行ったりする。

司書教諭を中心としながら

学校行事、児童会活動、開放図書館の取組など、学校が一体となって環境づくりをしていく。

寄託図書を活用

学級文庫の充実のために、寄託図書のセット寄託図書を利用することもできる。

読書記録の工夫

10冊ごとや何ページかごとに教師や友達に今まで読んだ本の中から1冊紹介する特別マスを設けておくことで読書の様子を定期的に見取ることができる。

この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇ 読みたい本を選びやすい環境、身近に多くの本がある環境をつくることで、本に親しみをもち、本の楽しさを味わおうとする態度を育てる。
- ◇ 読んだ本を読書カードに記録する活動を通して、継続して読書をする習慣を身に付ける。



実践例 [2] 小学校全般 国語 「国語の関連読書を朝の読書で」 ～同じ作者の他の作品やシリーズ作品を読む～

教科書作品と同じ作者の他の作品を読もう

- 朝読書や単元の導入時、または単元の学習が進むのと並行して、同じ作者の他の作品を読み聞かせや寄託図書を活用して読んでおくことで、作者の傾向を知る手掛かりを得ることができる。シリーズものであれば、他の作品での登場人物の様子からキャラクター像を想像し、作品世界をよりダイナミックに捉えることにもつながる。

例) 2年『黄色いバケツ』きつねくんシリーズ

『わたしはおねえさん』すみれちゃんシリーズ

4年『白いぼうし』あまんきみこの作品

6年『やまなし』宮沢賢治の作品

『○○のいのち』シリーズ 立松和幸の作品

「テーマ朝読書」

- ファンタジーや伝記、昔話や古典などの教材を授業で扱う時は、「テーマ朝読書」として、クラスで教材と同じジャンルの作品を読み合い、ジャンルに慣れ親しむ活動を設ける。単元の学習の終わりに朝読書で読んだ本の感想文や推薦文、本紹介などの学習活動を設定することも考えられる。

毎日継続した読み聞かせを

長編作品の場合でも毎日の朝読書の時間に5分程度継続して「読み聞かせ」をしながら、みんなで作品を味わうことも効果的である。

教室掲示の工夫で

関連した作品を読んで知ったことや感じたことなどをカードに書き、教室掲示することで学習に入ったときの振り返りが容易になる。

実物投影機を活用して

読み聞かせのときに実物投影機を利用し、本を拡大投影してどの子も見られるようにすると臨場感があって効果的である。(写真参照)

この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇ 同じ作者やシリーズ、テーマなど複数の本を並行して読んだり比べて読んだりする活動を通して、作品による違いや類似点を発見しながら、幅広く読書しようとする意欲や読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする力を育てる。



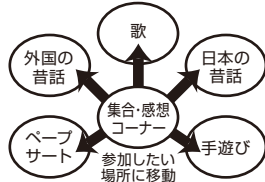
実践例 [3]

小学校高学年 総合的な学習の時間 「子育てサロンとの交流」 ～幼児への読み聞かせを目的に意欲化を図る～

地域とともに

- ・総合的な学習の時間の取組で、児童会館で行われる幼児とその保護者が参加する「子育てサロン」に一緒に参加し、乳幼児と一緒に自由遊びをする他、読み聞かせを行ったり簡単な手遊びや踊りを楽しんだりする活動を行う。
- ・本のジャンルや紙芝居などのコーナーに分かれて、幼児が自由に聞きたいお話を選べるような場を工夫する。

(図参照)



寄託図書や「ブックさあくる」の活用

教科書作品の作者のシリーズ作品などを、寄託図書や「ブックさあくる」(実践例[4]参照)を活用して取り寄せることができる。

視覚に訴えて

大型絵本や紙芝居、ペープサートなどを積極的に用いて意欲化を図る。

この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇読み聞かせをするという目的意識や聞き手である幼児に対する相手意識をもつことによって、目的や相手に合った本を選ぼうとする意欲や本を選ぶ力を育てる。
- ◇読書を通じて進んで人と関わろうとする意欲や、相手を思いやる気持ちを育てる。

中学校・高等学校 における実践

中学校・高等学校においては、学校図書館の学習・情報センターとしての機能を活用しながら、自分が読みたい本や必要な情報などを主体的に収集し活用する能力を育むことが大切である。また様々なジャンルの本に触れることは、生徒の見方や考え方の広がりや深まりにつながる。

実践例 [4]

中学校2年 国語 「作家・作品紹介をしよう!」(実践資料集P78～79参照)

こんな作家がいるよ!

- ・全ての学年の国語の教科書にある「読書と情報」の学習の最後で、生徒それぞれが興味のある作家について(作家の人生・作風・作品のあらすじ等)を紹介し合う。作家の情報を集め、レポートを作成し、交流会を行う。



推薦文を書こう!

- ・これまで読んだ様々な本から、下級生に推薦する本を紹介する活動を行う。作者についての情報、挿絵、惹きつける叙述の書き抜きなど、作者のよさを効果的に伝える構成を考える。

どのように本を選び、読む 機会を与えるか

寄託図書や「ブックさあくる」(学校から中央図書館にアクセスして本を借りることができる仕組み)を活用して生徒が気になる作者の作品を読むことができるようにする。

これまでの読書活動を振り返る

自分が繰り返し読んでいた本や影響を受けた本など、今までの読書活動を振り返ることで、紹介するための本を選べるように司書教諭や担任が関わる。

この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇友達との交流により、新しい本の世界を知る喜びを味わせるとともに、未知なる作品への興味関心を高め、次の読書活動にも意欲的に取り組もうとする。
- ◇これまで知らなかったジャンルや作者に触れ、その作品を読むことで、個人のもの見方や考え方が広がるとともに、さらに自己を向上させようとする態度を育てる。
- ◇推薦文や作家を紹介するレポートを書く活動を通して本を読み込み、内容や要旨を捉えたり、必要な知識や情報を集めたりする力を育てる。

実践例 [5]

図書館・委員会活動 「学校図書館の活性化を図ろう!」

新一年生に学校図書館の案内誌を配ろう!

本の借り方や利用する際の諸注意、図書館の配置図などを載せた冊子を、図書局員が作成する。(読みやすいようにストーリーのある漫画にするなど工夫するとよい。)それを、新一年生に配布し学活の時間を利用して説明する。

貸出推進キャンペーンを行おう!

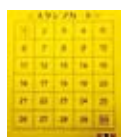
貸出推進週間を設け、キャンペーンを行う。ポイントカード制により、手作りのしおりがもらえるなどの特典を付ける。

本が原作の映画を観よう!

映画化された本のコーナーを設ける。また、放課後などの時間を使って上映会を行う。(例)「いま、会いにゆきます」「真夏のオリオン」「ハリーポッターシリーズ」など。

活動を根付かせるためには

図書局員(生徒)の自発的な発想を大切にする。案内誌は毎年の新一年生に配布する。キャンペーンなどの催しは季節毎1回など定期的に行うとよい。全校生徒を対象とした活動は、紹介コーナーを設けるなど多くの人の目に触れるように工夫する。図書局員が学校外の図書館(大学・高校など)を訪問するなどして他の活動に触れ、発想を広げるきっかけを作る。



ポイントがたまるとプレゼントがもらえるといいね。しおりを作ったらどうかな。



この学習活動で ねらいとする育てたい力

- ◇生徒の手による学校図書館のPRなどの取組により、生徒が学習・情報センターとしての学校図書館のよさに気付くことで、楽しみながら幅広く読書をしようとする意欲を育てる。
- ◇学校図書館に様々な種類の本があり、必要な知識や情報を集めることができることから、知識や情報を効果的に活用する能力を育てる。



札幌らしい特色ある学校教育【雪】【環境】【読書】で「育てたい力」

各園・学校の教育課程への位置付けに当たって

「自立した札幌人」の育成に向け、「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む学校教育を具現化するために行う、「札幌らしい特色ある学校教育」の三つのテーマ【雪】【環境】【読書】の学習活動を各幼稚園・学校の教育課程に位置付けるに当たっては、各々の活動によって、どのような力を育てたいのかを明確にして教育課程に位置付けることが大切です。

●北国札幌らしさを学ぶ【雪】

「雪」や冬をテーマとしたり、「雪」や冬を活かしたりする学習活動を通して、雪に親しみ雪と共生しようとする心情とともに、北国の季節や自然、人の暮らし等に対する知識・理解や雪に関わる活動への基本的な技能、自ら追究しようとする態度、問題を考えたり、判断したり、工夫したことを表現したりする能力などを育てる。

●未来の札幌を見つめる【環境】

環境をテーマとした様々な学習活動に取り組むことを通して、環境や環境問題に関心を持ち、自らふるさと札幌の美しい自然・環境を守り育てようとする態度とともに、人々の生活や活動と環境との関わりについての理解と認識を深め、環境の保全に配慮した望ましい働き掛けのできる技能や思考力、判断力などを育てる。

●生涯にわたる学びの基盤【読書】

様々な読書活動を通して、楽しみながら幅広く読書をしようとする意欲や、ものの見方や考え方を広げ自己を向上させようとする態度とともに、内容を適切に読む力や情報を活用する力などを育てる。

